

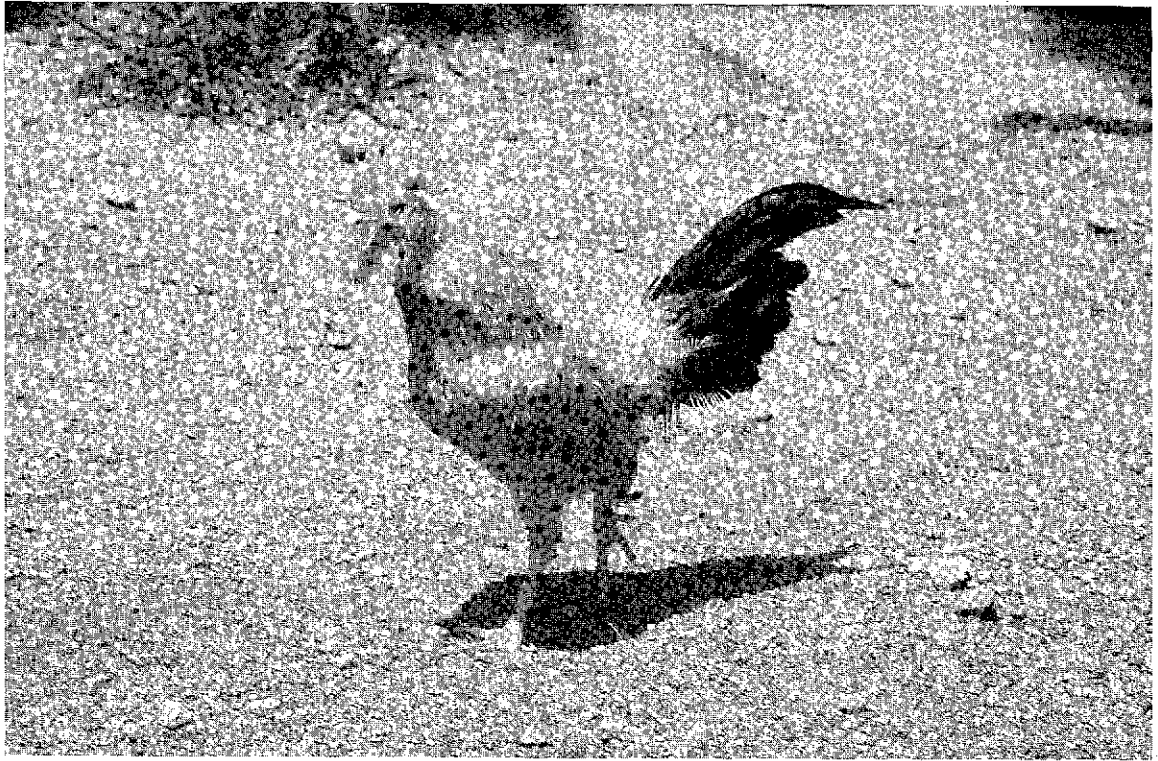
新潟県

平成5年

公民館月報

1月
第479号

新春特集 公民館夢遊論



初鶏に

大志膨らむ

少年期

宮島志沙子

(栄町公民館俳句グループ)

芝地鶏は町の天然記念物。羽色が淡いオレンジ色で尾だけ黒色、体型は細味の「字」で尾の角度が低いものほど価値が高い。詳細は八面に解説

(写真・資料提供 南蒲原郡 栄町公民館提供)

第41回公民館振興大会開催

いまこそ公民館の実力発揮のとき

国庫補助大幅増の要求も決議

去る十二月一日(火)東京赤坂プリンスホテル五階ロイヤルホールを会場に、第四十一回全国公民館振興大会が開催された。全国から千数百名の市町村長並びに教育長、公民館関係者等の参加により会場が埋め尽くされる盛況の振興大会であった。本県からは四十八名の市町村長等関係者の参加により大会を盛り上げた。

大会は定刻一時三十分

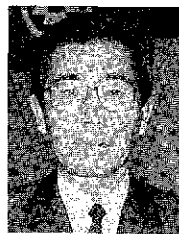
分に開会された。君が代斉唱のあと全国公民館連合会会長吉里邦夫



池田氏



田子氏



金子氏

氏は、国の内外を問わず激変する社会情勢のなかで、公民館も適切な対応を迫られている。「今こそ、公民館ここにあり」と、その存在を示す活動をしよう」と呼び掛けた。

また、公民館振興市町村長連盟会長太田大三氏(岩手県盛岡市長)は、国の来年度予算は想

宣言・決議

公民館は、戦後一貫して社会教育活動の中心拠点としての役割を担い、地域社会の活性化に努めてきた。

今、21世紀を目前にして、国の内外を問わず、社会の状況は激変しつつあり、適切な対応を迫られている。特に生涯学習社会への対応、学校週5日制への取り組みなど公民館として果たすべき役割は、ますます重要視されるべきであり、我々もまた一段と新たな努力をしなければならないことを自覚するものである。

ここに、われわれは第41回全国公民館振興大会を開催し、決意を新たにするとともに、全国市町村長並びに公民館関係者の総意を結集し、平成5年度予算において、次の事項が速やかに措置され、かつ確実に実現するよう強く要望するものである。

記

一、公民館関係施設整備に対する国庫補助金の大幅増額

①公民館	144館分	4,536百万円
②大型公民館	7館分	595百万円
③公立生涯学習推進センター		
要求額	1館分	300百万円
④都市型・専門型公民館		
要望額	15館分(新規)	840百万円

一、公民館活動等のより一層の活性化を図る社会教育施設活性化支援事業に対する国庫補助金の確保

要求額 891百万円

一、公民館職員の専門性確立をはじめとする、公民館振興のための諸制度の整備

右 宣言し決議する。

平成4年12月1日

第41回全国公民館振興大会

像以上に厳しいものがある。来年度の公民館建設費国庫補助額確保のためにこれまで以上の気構えで臨まなければならないと挨拶。緊迫感が感じられた。

続いて三十三名の優良公民館職員表彰と百五十六名に及ぶ永年勤続者表彰が行なわれた。当県からは次の三名の方々が受賞された。

優良職員表彰
金子 虎吉郎 氏
佐渡郡小木町公民館長
永年勤続者表彰
田子 了秀 氏
西蒲原郡西川町公民館長
池田 忠 氏

このあと、文部大臣祝辞(生涯学習局長代読)、続いて公民館振興国会議員懇談会諸氏による激励挨拶に移ったが、折から開会中の臨時国会が緊迫しており、大方の議員諸氏は姿を見せなかったのが例年と異なるところであった。

記念講演に移り、千石保氏による「平成の若者たち」と題する講演(要旨六面に掲載)があり、大会宣言(別掲)を満場一致で可決し、予定どおり全日程を終了した。

新潟市北地区公民館社
会教育主事

公民館振興市町村長連盟

定例理事・代議員会開催

十二月一日(第41回)公民館振興大会終了後、直ちに会場を四階「富士の間」に移し、平成四年度の公民館振興市町村長連盟理事・代議員会が開催された。

これは、年一回恒例の会議で

①平成三年度事業報告及び収支決算について、②平成五年度事業計画及び収支予算(案)について、③平成五年度公民館施設整備費補助予算の獲得運動について、④公民館振興大会において、

る宣言・決議の取り扱いについて、の協議であった。

いづれも執行部原案のとおり可決決定された。

ちなみに、平成五年度の事業方針は次のとおりである。

事業方針(要約)

一、公民館は単なるハコモノではなく、生涯学習の中核センターであり、コミュニティ活動を実践する市長村の拠点である。我々市町村長はこのことを改め

て再認識し、地域振興の唯一の施設として、名実ともにその内容充実のため、全国公民館連合会と緊密な連携をはかり強力に推進する。

一、とくに、平成五年度の公民館施設整備費補助予算の獲得運動を強力にすすめる。

二、さらに、所期の目的達成のため、本連盟への未加盟市町村に加入を勧奨し、その連帯を深めて、公民館の振興発展をはかり、もって、市町村の活性化を期する。

辛 口

戦後、ブライバシーを守る目的からでしよ

うか、日本の住宅が洋風化し、ドアの多い様式に変わりました。

ライバシーを守る目的からでしよ

うか、日本の住宅が洋風化し、ドアの多い様式に変わりました。

ドアのない活動を

阿部 桂子

まいりました。これが開けられる障子やふすまだったらどうだったでしょう。

最近、建築界では「広

がりの空間」が注目されています。同じ生活に慣れた私たちに

ベースでも、ドアで仕切った個室をたくさん作るのではなく、必要ならその都度、障子やふすまで仕切れば「個室」の空間が作れるようにし、普段は家族がお互いに姿を見つめ合

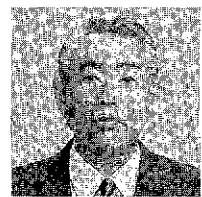
は抵抗があるかも知れません。だが、昔の障子やふすまの住宅というのはいずれは理にかなっていった建築形式だったと思うのです。

生涯学習の中核をなす公民館も、ドアの内側に大人だけを入れるのではなく、少女たちも「地域に根ざした生き生き活動」が出来るように、ドアの内側で一緒に活動したいのです。

(ガールスカウト 新潟県支部長)

生 活 改 善

藤 田 道 郎



加茂市民の決意として、「病気見舞いのお返しに代えて、回復の喜びと感謝の気持ちを表す礼状を出すことを奨励して、既製の礼状(はがき)を市役所総務課に用意し、一枚五円五十銭で頒布しております。市区長会、婦人団体、市民活動委員会が中心になって、一時は趣旨も浸透し定着したかに見えました。が、バブル経済の中でいつしか忘れ去られたような感じがします。そのことを喚く一部市民の声から、バブル崩壊の今こそもう一度原点に戻って、活動を再開すべきだということになりました。

市民活動委員会での論議の中で、一見長年の慣習から徹底しにくいと思われる農村部に於ては、「今度からこうなりました。こうして下さい」ということで、むしろ素直に浸透しやすい、

ひ ろ ば

昔の公民館結婚式とは時代が変わっておりまして、

騒ぎ事に付きもののお酒、しきたりだから疑問に思わないというより、疑問を持ちながらしきたりに従っているというのが本音でしょう。

生活改善に向けて公民館の果たすべき役割を、いまさらながら考える今日この頃であります。

(加茂市公選審議長)



いま、企業界ではしきりに「企業イメージを変えることで生き残りを図ろう」と必死である。横文字で記すとC・I(コーポレートアイデンティティ)戦略である。

激変する社会にあつて、公民館もまたイメージアップ(内容の充実が伴うのは言うまでもない)を図り、生涯学習や地域づくりの拠点施設をアピールする必要がある。

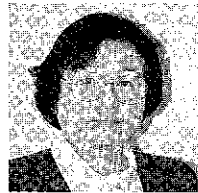
そこで、平成五年の正月を迎えるにあたり、公民館を愛する三人の方プラスワンから、公民館のアイデンティティに関する夢のお年玉を頂戴した。

論 遊 夢

一話 ない話

公民館が面白い

天 児 淑 子



外の敷し
い寒さがう
そのよう
に、公民館
のロビーは
暖かい。

朝の九時を過ぎたばかりなのに、もう、ちらほら人々の姿が動いている。

次郎さんは、妻のユキ子さんと二人で、ゆったりとしたソファーにかけ、さつきから誰かを待っている様子。

「おじいちゃん、おばあちゃんおはよう。」

孫の一郎とハナコが、嫁いだ娘夫婦と一緒に元氣よくかけ込んできた。学校が休みとなる第二土曜日の朝の待ち合わせもすつかり定着した次郎さん一家の楽しいひとときである。

約九百平米のロビーは、ホテルのラウンジのようにゆつたりとして、喫茶室もあり、情報コーナーには公民館主事が丁寧な対応をしている。ガラス張りの向こうには、全身遊びの遊具や子どもトイレもある「子ども広場」があり、もう子どもたちが遊びにきている。

十時十分前になり、壁の仕掛け時計がまわりメロディが流れる。

と、次郎さん一家は「じゃ終わったらまたここで合おうね」と約束して、それぞれの活動の場へ散っていった。

次郎さんは男性のための料理教室へ、ユキ子さんはロシア語講座へ、娘のハナコさんはグループ発行の雑誌づくり、孫の一郎くんは陶芸教室へ、またヨウコちゃんは、お父さんと手づくり絵本の教室へ。

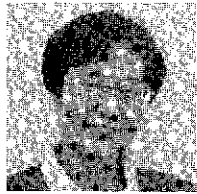
正午までの二時間はあつという間にすぎ、ロビーに集まってきた次郎家の人々の頬は紅潮し満足感いっぱい表情である。

「公民館は面白い」という友人の話聞いて、次郎さんが初

『夢』公民館を訪ねて

(新潟市教育委員会 社会教育課長)

大 野 一 伊



地域に密着した運営
をしている
「夢」公民館を訪ねた。そこは、

私の知っているこれまでの公民館とはだいぶ違っていた。

まず、彩色の明るいエントランスホールに今までの公民館とは違った印象を受けた。つづいて、玄関脇の保育室には、昼寝

めて公民館に足を運んだのは昨年の春、定年退職を一年後に控え、あれこれ考えていた時のこと。「退職してからではなく、気づいた時が発点ですよ」と相談のつてくれた公民館主事の言葉に励まされ、それ以来、家族を巻き込んでさまざまな活動をするようになった。

「労働時間四十時間のゆとり」の時代が、皆さんに学習したいという気持ちを起こさせています。公民館が学習の場として面白くなるのはこれからです」と言う公民館長さんのことも、次郎さんはすつかり氣にいつていた。そんな公民館をつくつてみたいナ。

用なのか可愛いベットの五つ並んでいた。

「若いお母さんだけでなく、おばあさんもお孫さんを連れてくるんですよ。たまにはおじいさんが連れてくることもありま

す。保母とボランティアの方が世話していただきますから、安心して預けていきます。」と館長さんが説明された。

公民館といえば「教えてもらうところ」で、子供などとても

連れていけなかったのに、ここでは、おじいさんもおばあさんも孫を連れて自主学習に一生懸命とか、これも生涯学習推進のおかげなのである。

何やら賑やかな声が聞こえてきた。多目的ホールからである。バザーが開かれているのだ。地域の人が、講座受講生の作品のほか、お菓子・手芸品さらには、押入に眠っていた贈答品の持ち寄りなど盛りたくさんである。企業も協力するなど、公民館利用者、が主体となって企画実行するバザーは自由裁量にまかされているという。

バザーの収益金は、一部は福祉社のためのチャリティー募金活動であり、一部は事業の活動資金になって潤っているという。

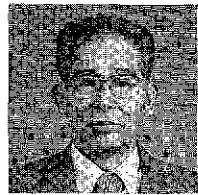
以前の公民館では物品を販売するなどともないことだったのにと、驚くことばかりである。

二階の研修室を覗くと、教壇や机・椅子がない。床一面に絨毯が敷き詰められている。教壇に立っての講義より、車座になってクッションを抱え込んでの講義が気楽で好評だという。

学習といえば学校の生徒のように姿勢を正して学ぶものと思っていたのにまったく驚きである。

帰りに事務室に寄った。広いわりには職員が少ない。聞けば

新 春 集 公 民 館 一 夢 に 終 わ ら せ



これからの公民館を考える

中野 滋

近年は、生涯学習の進展気運に呼応するかのよう、公民館とは別に、民間施設も含めて、魅力のある学習機会や催しもの、新しい学習施設がみられるようになり、このままですと、住民の公民館はなれがますます進行しかねない情勢です。

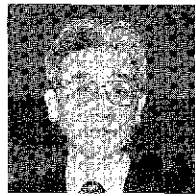
学校も変わりつつあります。「教育方法や学習内容の多様化に対応するために、学校施設の質的転換が求められている」と。新しい学校の構想や新築は、児童生徒のものだけでなく、一般地域住民の集会や学習の場としても利用できる複合的なものが出現しはじめています。

文部省・建設省などの協力で設立された社団法人「文教施設協会」が主催して、先般新発田市で行なわれた「インテリジェントスクールセミナー92」(全国大会)もその一つでした。学校だけでなく社会教育施設・スポーツ施設・文化施設を含めて、建物・教具家具・屋外設備の近代化・インテリジェント化を推進しようというものでした。

昔から、学習(教育)の場としての学校は、「黒板・教卓・机・椅子の教室と廊下・運動場」というイメージがあります。そして公民館もそれに右へならえの格好でした。木造から鉄筋コンクリートに変わったとしても、その内部構造は大方昔の学校のイメージそのままのような気がします。

学校の空き教室変身

上村 捨二郎



第〇回の県公民館大会が盛大に開催された。セミナーマは

「学校の空き教室を公民館としてどう活用できるか」という成果を挙げている。市の△地区公民館長の実情発表に、魅せられたように聞き入っていた。正直言って、「小学校の空き教室利用なんて」とタカをくくっ

ていた私もすっかり虜になっていた。実情発表がビデオの放映によったので説得力があったのかもしれない。まず、高齢者のために一階部分を公民館にし、学校が二・三階を使用していることに学校側の優しさを感じた。

でありたいものだと思います。今、公民館では、催物はともかくとして、学級・講座に参加するか、学習グループ等で利用するのでなければ、入館できない公民館が多いような気がします。個人学習や地域づくり・まちづくりを考慮に入れての質的転換は重要な公民館の課題であると言えるようです。

新しい公民館を建築するときのために、広い「ふれあいロビー」を入れるなど今から夢を膨らませたいものです。施設・設備、事業、運営とイメージチェンジの幅は広く多面に考えられます。(新潟県社会教育協会常務理事)

作品や、孫たちの絵や習字の作品が展示されている。この地区の住民は「我らの学校・我らの公民館」の意識がよく、その気持ちが学校施設の内外に、花あり・絵ありと環境の美化にも意を用いているのがよく分かる。

質疑応答の時間に移って、「市の理事者をどのように説得したのか」とか「そのための組織や協議会はどうなっているか」さらには「折衝の経過は」といったおさまりの質問が続出した。公民館長の答えは、

- ・高齢化社会でお年寄りの便利のために通館距離を短くする必要。学校週五日制による施設整備の必要などが社会的趨勢となっていくこと。
- ・現実には、地域住民がこぞって学校と公民館をドッキングすることを望んでいた。そのため、公運審はもちろん、関係団体、とりわけ文化協会などの後押しが効果的だったという。
- しかし、真意は「館長も職員も昔から地域に出向き、足まめに生活課題を掘り起こしてきたことが、町内会長(区長)たちの理解を得、強力なバックアップがあったことが何よりの決め手だよ」という館長の言外の声

が聞こえるような気がした。(当県公運事務局長)

「学校の空き教室を公民館としてどう活用できるか」という成果を挙げている。市の△地区公民館長の実情発表に、魅せられたように聞き入っていた。正直言って、「小学校の空き教室利用なんて」とタカをくくっ

ていた私もすっかり虜になっていた。実情発表がビデオの放映によったので説得力があったのかもしれない。まず、高齢者のために一階部分を公民館にし、学校が二・三階を使用していることに学校側の優しさを感じた。

質疑応答の時間に移って、「市の理事者をどのように説得したのか」とか「そのための組織や協議会はどうなっているか」さらには「折衝の経過は」といったおさまりの質問が続出した。公民館長の答えは、

(当県公運事務局長)

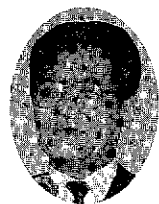
館長も指導員(専門職員)も常勤だが、事業の企画は、講座終了者が中心になって自主的に面白いプログラムを作っているという。そういえば掲示板に「やわらか頭、想像セミナー」『若者わくわく村、〇〇大会』など面白そうなネーミングの事業案内のポスターが貼られていたのを見た。

さすがは地域密着型公民館ではあると感心した。女性館長なればこそその柔軟な運営と細部にわたる工夫が凝らされているのに敬意を表して訪問を終えた。(新潟県婦人国内研修 友の会会長)

平成日本の若ものたち

まじめの崩壊

早稲田大学客員教授 千石 保氏
日本青少年研究所長



千石氏

最近の五年間に、中学生の肩こりが多くなったと言われております。その原因として考えられるのは、中学生生活が疲れるという点です。疲れは緊張からくるもの。緊張するといふのは、周囲にとけ込もうと努力したり、適応しようとするときに気を使わなければならぬこと、中学生が多くなってきたということでしょう。

また、この五年間に若い人たちの間で「愛情があれば性交渉もかまわない」という数字が高

くなったとも言われています。実際の行為は以前とあまり変わっていないのですが、そういう意識だけは高いというデータが示されています。これは、漫画文化による影響が強いと思われ

ます。その典型は、TVの純愛もの(柴門ふみ著「東京ラブストーリー」)がはやったことによるものでしょう。

昔の「純愛」というのは、人間関係において、肉体を除いた精神面が重要視されたものです(今でもその傾向がなくなつたわけではないでしょう)。魂の愛情のことを言ったもので、今の愛は心とともに身体がともなわなければ話になりません。セックスが神聖なものではなくなっているわけです。

このように、今の若い人たちの意識の劇的な変化について「唄は世につれ」の発想と同様に「漫画は世につれ」の観点で説明しましょう。

若い人たちの意識の変化は一九七七年(オイルショックの年)を境にしているように思われます。それ以前は、つまり、昭和

三十年代は、「巨人の星」に象徴されるとおり、いわゆる「スポーツ根性」ものが圧倒的な人気を博しました。父のしごきに耐えて根性を鍛え、努力を惜しまないという自己犠牲のバ

ターンが、当時の産業界の高度経済成長の歩みとパラレルに受け入れられ一世を風靡したのでした。しかし、オイルショックのあと、若者の求めるものがすっかり変わりました。スポコンものに変わり、コミカルなもの

が求められるようになってきました。学校では、品行方正な優等生タイプよりは、「冗談をいう面白い子」のほうが人気者になりました。教師さえも、冗談の言える先生でないと生徒がついてこないようになってしまいました。このように「冗談文化」に押し流されることとなるわけです。

そして、今日の物の豊かな社会では「相対主義」の人間関係が支配的になっています。相対主義」というのは、「自分は自分なりに」という考え方のことであって、友達

方をするということでもありません。

例えば、運動会で、わが子がどう見ても一生懸命に駆けていない様子を見て「どうしてお前は頑張らないのだ」となると、その子はげんなりした顔をして「僕は僕なりに頑張ったのだ」と主張するのは、その子にとっては精一杯頑張ったつもりなのです。スポコンにおける「頑張る」という概念は「死にものぐるいで」とか「額に汗して」といったふうな社会通念があるわけですが、「相対主義」では、その人

なりには「遊び半分」のように見えることでも当人には真剣であるわけです。

また、こんな例もよくあるでしょう。子供が朝寝坊をして起きてこない。毎朝母親が「早く起きなさい」と無理矢理起こしにかかる光景です。子供は「僕は夜型なんだから朝はもっと寝かせてほしい」というと、母親は「そんなこと言ったら、学校に遅刻するでしょう」と言う。子供は「学校が朝からあるというの

は誰が決めたのだ」と言葉を買って出て、「お天道さまの照っている間に働いたり、学んだりするの

は人間共通の利益だと思ふ。だから、早く起きなさい」と言う、さすがにチキは黙ってしまい、眠い目をこすりながら起きてくるという図です。先程の「僕はぼくなりに頑張ったのだ」という主張と「僕は夜型なんだ」という主張とは共通しているものです。自分というものの個性を主張しているのではありません。また、社会的ルールとも無関係なんです。したがって、仲間同志では、「おしやべり」はよくしませんが討論とか言い争いにはなりません。相手には相手の考えがあるのだということを認め合っているからなんです。

これは、裏かえせば、「俺はこう思うのだ」という自己主張がなくなっていることを意味します。それでは進歩がありません。未来志向もなくなる傾向にあります。

こうした若者の傾向をどうすればいいのでしょうか。決め手になるものを持ちあわせていませんが、少なくとも「父の背中」を見せる必要があります。その一つは、「ボランティア活動」を挙げるのができます。「父がボランティア活動」をしている子供は光っています。

(要約・文責上村)



第41回全国公民館大会

サークル交流

スタートライン 小出町「自由大学英会話」

という形で「自由大学英会話」が発足しました。(初回10/6以来毎週火曜、年齢18歳～50歳とワイド)

通りすがりに、英語で何か尋ねられても、頭の中がカッとして、何も話せなかったり、又、巷にあふれる横文字の多い広告、何やらピンッと解せないビシネス用語等々―これではこまったもの、何とかしたいな、という思いを公民館に相談し、英会話教室の開校をお願いしたのは、9月でした。公民館のバックアップをいただき、自主運営

講師は、隣町の国際大学の学生です。片言の日本語と片言の英語のかけあいもあり、身ぶり手ぶりもまじえ、アイコンタクトが頼りの一時間半。口常会話が可能になるにはほど遠いけれど、とにかく楽しく続けられたら、いいな。

通りすがり、必要なら英会話したい。遠い国へ旅したい。―思いを胸に、がんばっています。(高野 トミ子記)

一本の紙ひも

―仲間の手― 長岡市「紙ひも細工同好会」

水に浸せばすぐ切れる紙ひも…その紙ひもを用いて人形・壺・花瓶等様々な作品を作り上げると共に、仲間同志の絆を大切にしたい、そう考えて私達の会は和やかに活動しています。発会の機縁は、六十歳以上を対象とした中央公民館主催の「高齢者趣味の教室」で知り



合った人達で同好会を結成し、自分達の力で仲間の輪を広げて行こうという事でした。

四年後の今では、長年教室で身につけた基礎技術を応用し、各自各様の型の作品を作り上げるまでになりました。

そして、中央公民館主催の「いきいき作品展」や郵便局・N.T.Tの展示コーナー等に出品し、多くの皆さんに楽しんでいただいたり、友達に贈ったりして大変喜ばれております。

作品づくりは仲間づくりの基本、これからも一本の紙ひもに仲間との絆を託し、楽しく活動を続けて行きたいと思えます。(藤原 カズ記)

見附市中央公民館主事補

阿部 泰比古氏(30歳)

今春、新採用で、縁あって席を並べることとなった当館の名物男「阿部ドン」を紹介します。彼は、昨秋めでたくゴールインし、目下、身重の愛妻と熱い毎日を送っている。

彼の奥さんを拝見すると(とつても美人!)夫婦とは何かと考えてしまう。(解釈は自由?)



最近、彼の全容が見えてきた。彼は、大の

素顔 拝見

プロレス熱狂者で、キャンパスに美を求め音楽を熱っぽく語り、テニスの超愛好者と幅広い趣味を持ったユニークで個性的な人間で(今どき珍しい人種)正しく公民館職員に打って付けの能力と素質を持ち合わせており、いつも羨ましく思っている。今、彼は、市職員として様々な試練を経ながら、更に大きな飛躍に期待が掛かっている。「急がず、着実な一歩を」と声援を惜しまない。(是非一度阿部ドンの働く当館へどうぞ)

見附市中央公民館副参事 大関 泰一記

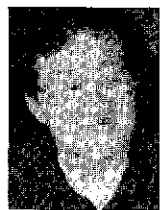
村上市中央公民館主査

木村 正 夫氏(33歳)

愛称「正夫チャン」と呼ばれる誰からも「頼もしい男」と絶賛の評価を受けている。

彼は四年前、税務課から山辺地区公民館を経て現在の中央公民館へ。今や押しも押されぬ公民館人、一直線。

持ち前のバイタリティーとシャープな感覚。フレキシブルな発想。その上、行動力抜群となれば正夫チャンのイメージも想像できると思えます。昨年実施した「公民館まつり」には寝食を忘れ、東奔西走。二



千人の市民のハートを 見事に躍らせる。 本当に彼

は公民館活動の仕掛人に徹し、なくてはならない貴重な存在であり、中央公民館は彼でもっているといっても決して決して過言ではない。家に帰れば父親に代わってひとりで農業をきりもりしこれも又、立派にやっている。ガンバレッ公民館の星・正夫チャン。

村上市教育委員会 中倉 清記

資料紹介

長岡市の公民館

長岡市中央公民館

長岡市中央公民館から「長岡市の公民館平成 4 年度版」が贈られてきた。中央公民館と地区館 26 館、校区公民館 4 館についての今年度事業の実績と点検について B 5 判 84 頁の冊子に克明に記されている。

この種の資料の多くは、年間事業の実績を、数量的に記載するに止まるのが一般的な傾向であるのに、長岡市の場合、五つの章の、それぞれの節にわたり、また、中央館・地区館に分類して、詳細に点検し、「現状と課題」並びに「今後の方向」について述べてあるところが特色である。

長岡市の公民館

平成 4 年度



「聞き取り」しばたの伝承料理(総集編)が贈られてきた。新発田市公民館の発行によるもので、婦人ボランティア講座の郷土料理研究班の編集になるものである。



資料紹介

この冊子は、ベテラン職員の見解を、公民館利用のルール、地域高齢者学習活動協力員設置要項、同任務などが載っている。

聞き取りしばたの伝承料理(総集編)

新発田市公民館

婦人ボランティア講座

本書は、公民館の学習グループ・婦人ボランティア講座の受講者が、「婦人の社会参加」などについて学習するとともに、ボランティア活動を積極的に展開し、六年間にわたり埋もれた郷土の伝承料理を一つ一つ掘り起こし、実際に再現し、その作り方を分かりやすい表現でまとめたものである。

これまで、第一集・第二集・第三集と刊行してきたものの総集編として編集したもので、取

められている内容には、「煮物」「焼き物」「炒め物」などなど十三のバターに二百八十四点の料理が載っている。B5判百八十七頁の大冊である。

今日多様な食文化が進む中で、減りつつある郷土の伝承料理の調査研究に取り組んだことはまことに大きな意義があるといえよう。

資料恵贈お礼 文芸むらかみ 第13号

文芸むらかみ編集委員会 村上教育委員会

文芸さんぼく 第8号 山北町教育委員会

道づれ 第8号 見附市圭の会、炎の会、林の会

栄町の文化遺産

芝地鶏

■成立と歴史

芝地鶏は、その体型・羽色からして三重県下に現存する狸々地鶏と和歌山県下に現存する白笹地鶏との交雑種と考えられている。成立年代は、だいたい安土桃山時代ころと見られ、その当時は今の芝地鶏よりも体軀が大きかったと想定される。

芝地鶏がどういふ目的で作出されたかは謎の部分が多いが、二つほど理由が考えられる。そ

の1つは薬用である。医学の発達していない当時は薬用として信じられ、赤卵を産む鶏の飼育につながったのではないだろうか。もう一つの理由は神事、仏事とのかわりあいである。昔から鶏は神聖なものとしてあがめられていた。

あとがき

◆明けましておめでとうございます。不景気色一色に塗りこめられた平成四年はサリました。今年こそ佳い年になる前兆が見えています。

◆公民館自己診断票の回収が九十市町村(80%)となりました。ご協力を感謝いたします。(12月28日)

目下集計作業を大急ぎで進めています。そこに現われる問題はみんな解決に向けて努力しましょう。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博

編集人 事務局長 上村 捨一郎
【定価 1部 130円 千共・年極 1,560円】